

変遷(講義→グループ→効率)

北海道札幌西高等学校 福島 洋一

0 はじめに(久しぶりの発表です。)

「参加する」=「何かを発表する」と考えていた頃から、転勤&オンライン開催などを挟んだことを言い訳に、発表しないまま、調べてみると5年が過ぎていた…。

異動とともに、コロナで授業形態を変えざるを得なくなり、収束したときにはいろいろなことが大きく変わっていた。流されるように日々をこなしている中で、いったい自分は何を考えてこの実践をしているのかよくわからなくなってしまうこともしばしば。

ということから、この発表を機に、今まで自分がやってきたことの変遷を振り返りながら、今自分が向かうべき方向を確認したいと思う。

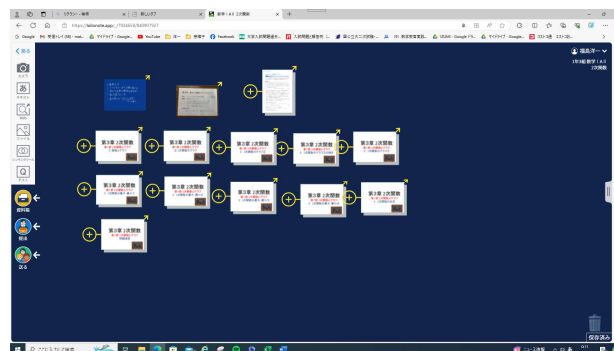
時代の流れに伴って、講義型の知識伝達授業から、グループを作り学ぶ力を育むことをねらいにした授業にシフトしていった(本当に育まれたかは分からないが…)。また、技術の進歩やこれらは以前の発表レポートに記した通りである。

2 今を見つめる

現任校に来てから求められることが高度になるとともに、環境が目まぐるしく変わり、教室になかったスクリーンやプロジェクターも各教室に設置され、Wi-Fi も通った。ipad も借りることができ、試用だが授業支援アプリ(ロイロノート)も使えるようになった。

1 振り返る

年度	学校	年数	焦点	主な授業形態	焦点
1996	R 高校	1	基礎理解	講義	HOW TO 伝達
1997		2			
1998		3			
1999		4			
2000		5			
2001		6			
2002		7			
2003	N M 高校	1	教科書理解	講義	HOW TO 伝達
2004		2			
2005		3			
2006		4			
2007		5			
2008	T 高校	1	基礎理解	講義	HOW TO 伝達
2009		2			
2010		3			
2011		4			
2012		5			
2013	I M 高校	1	教科書理解	グループ	学ぶ力
2014		2			
2015		3			
2016		4			
2017		5			
2018		6			
2019	S N 高校	1	応用・発展	グループ	+効率
2020		2			
2021		3			
2022		4			
2023		5			
2024		6			



応用・発展ができる生徒を育てることが求められる現任校において、効率よくその趣旨に合った授業をするために、この環境を活用しようと日々取り組んでいる。そのメリットと、気になる点を記しておく。

メリット

(i) 提示する

口頭やプリントで提示していた課題を視覚的に、データで、提示できるようになり、時間をかけずに分かりやすく伝えられるようになった。

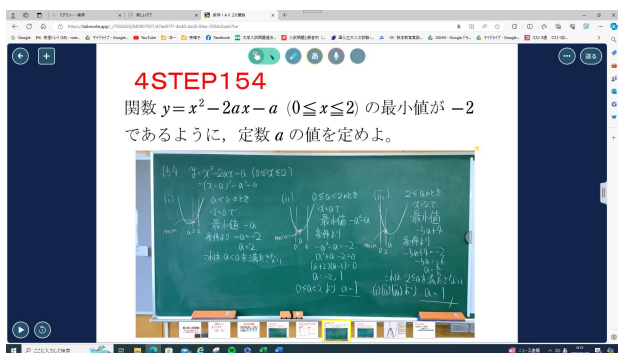
(ii) 間違える

(ii)に含まれることだが、考えさせるための課

題の一つとしての誤答の分析をするための例を時間をかけずに出すことができるようになった。

(iii) 書かせない

スライドを提示し、書き込んだものを共有することで、ノートを取ることが中心になりがちな生徒の活動を、考えることに向けることができるようになった。

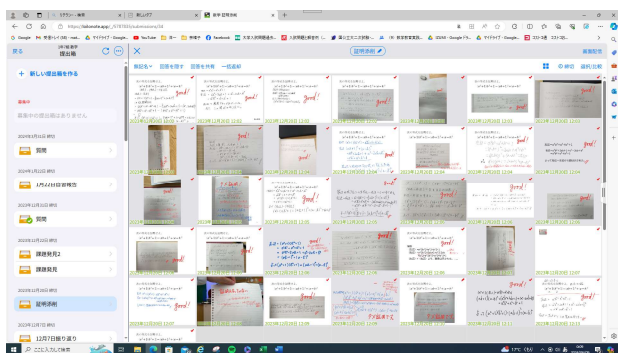


(iv) 共有する

生徒の提出をデータにすることで、共有するための準備がとても楽になった（コピー・スキャン→切り貼り→印刷からデータ上のコピー）。

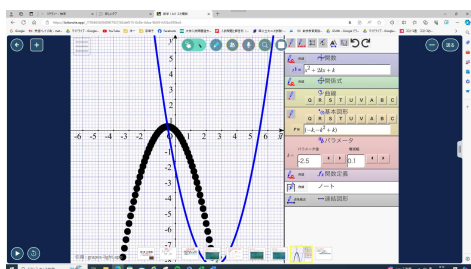
(v) 診る

ちょっとした課題は提出されたデータにたちペンで書き込み返却できるようになった。



(vi) グラフソフトとの相性

グラフソフトへのリンクを配布し、クリック（タップ）で見られるようになった。



気になる

(i) 持ってこない

1日の1時間でしか使わない端末を持ってこない（本校は授業中にスマホを使えるのでスマホで対応可能）。学校では充電できない。そもそも、置いていくと管理上、問題あり。

(ii) 読み込めない

全校で使うとWi-Fiが使い物にならなくなる。

(iii) 書けなくなる

ノートを書かないことで、実際に書いて伝えるという能力が育ちづらくなる。

(iv) 広がらない

授業支援アプリを使う人がなかなか増えない。

(v) 追い付かない

入試が変わらなければ、資質・能力ベースではなく、内容ベースで進めなければならなくなり（私の能力不足は否めませんが…）、やりたいことをやるための時間捻出が大変。

(vi) 速すぎる

効率を求めるあまりに、生徒の思考スピードをはるかに超えるスピードで授業を進めてしまいがちになる（それってあなたのせいでしょう！と言われると返す言葉もありません）。

3 レポートを作って気がついた

知識伝達型の授業をしていたころもあったが、その頃から、自分が伝えたいと思っていることは大きく変わっていないことに気がついた。時代のトレンドや技術の進歩に伴って、やり方は変わっていき、その度に心配事も生まれるが、歩みを進めていく以外に解決策はないのではないかと（「そりゃそうだろう」という結論で申し訳ありません(^_^)。久しぶりの発表なので許してください。また5年後に会いましょう。そのときはどんな世の中になっているのでしょうか？）